

輸入衣料品の染色堅牢度

小見山二郎、○勢畑章子、大石千恵
(実践女大)

＜目的＞ 10年前から輸入衣料品は飛躍的に増え、現在では国内の全供給量の6割を上回るようになっている。輸入品の中には発色を重視するため、染色堅牢度が甘かったり、洗濯方法の指示が適切でなかったりすることがあり、消費者からのクレームが出ることもある。取り扱い絵表示には消費者に正しく理解され難いという問題があり、これから改訂されようとしているが、日本の消費の水準を低下させないためにも、良い製品を正しく扱うことができるように、たえずチェックする必要がある。本報告では、消費者の立場から絵表示の問題点を指摘し、輸入衣料品の堅牢度を評価することを試みた。

＜実験＞ 19点のヨーロッパ、アジアからの輸入衣料品を某社から恵与いただいた。JIS-L0844に従って市販洗剤を用いて、40、70℃で洗濯堅牢度を調べ、JIS-L0801などに従って耐光堅牢度を調べた。また ΔE を色差計で測定した。

＜結果＞ 約100名の女子学生とその家族に絵表示についてのアンケートを行なった。このうち、約半数が絵表示を見ないか理解しないまま洗濯しており、色落ち、色移りを経験した人も2、30%に及んだ。洗濯堅牢度試験では19の輸入品サンプル中、40℃では4、70℃では5サンプルの堅牢度が3-4級以下であった。また全般に色落ちするものは移染し易かったが、色落ちしても色移りしないものが数点あった。耐光堅牢度では緑色の製品が変退色が大きかった。これらをまとめて、改善のためのポイントを指摘する。